

刑事資料  
平成30年

取扱注意

# 刑法各論〔下〕

警視庁刑事部

## 目次

## 刑法〔下〕

## 第31章 親族間の犯罪に関する特例

## 1 親族間の犯罪に関する特例

- 〔事例〕 1 実父が修理のために預かっていた他人の腕時計を窃取した実子に対する親族間の犯罪に関する特例の適用の有無…………… 1
- 2 実父が経営する会社の所有に係る現金を窃取した者に対する親族間の犯罪に関する特例の適用の有無…………… 3
- 3 偽装結婚した相手方から現金を窃取した場合における親族間の犯罪に関する特例の適用の有無…………… 5
- 4 親族間の犯罪に関する特例により刑が免除される配偶者に、いわゆる内縁関係にある者は含まれるか…………… 8
- 5 妻と離婚して長期間音信不通であった者が、既に他人の養子となっている実子の財物を窃取した場合における親族間の犯罪に関する特例の適用の有無…………… 10
- 6 実父が死亡した後、同居でない継母方に侵入し、同女の現金を盗んだ場合における親族間の犯罪に関する特例の適用の有無…………… 12

## 第32章 強盗の罪

## 1 強盗罪

- 〔事例〕 1 タクシー強盗に着手したところ、運転手が車外に逃げ出したことから、売上金を奪うため、同タクシーを運転して逃走した場合における強盗罪の客体……………15
- 2 警察官を装って虚偽の犯罪で運転者を逮捕し、その後、車両を押収すると申し向けて、これを持ち去った者の刑責……………18
- 3 強盗を共謀して被害者を監禁した上、その住居に押し入り、キャッシュカードを強奪後、一人が被害者を監視している間に、他の一人が当該キャッシュカードで現金を引き出した場合における両者の刑責……………21
- 4 現金を強取する目的で相手を監禁して同人宅の鍵を強取し、引き続きその鍵を利用して被害者の自宅に侵入し現金を持ち去った者の刑責……………24
- 5 バイクを利用してひったくりを敢行する際、被害者からショルダーバッグを無理やり奪い取るために同人を転倒させ、更に引きずった者の刑責……………27
- 6 強制わいせつの目的で被害者を緊縛してわいせつな行為をした後、財物奪取の意思を生じ、同女に気付かれないように財布を持ち去った者の刑責……………30
- 7 警察等への通報を妨げる目的で、脅迫して携帯電話機を奪い取り、損壊・投棄した者の刑責……………32
- 8 犯行から数日後、被害者に暴行を加えて被害品の返還を免れた者の刑責……………34

- 9 無賃乗車を企図した者が、運転手に暴行を加えて乗車料金の支払を免れた場合の刑責……………36
- 10 刃物を突き付けて強盗した1週間後、同じ被害者に対し「分かってるだろう。」などと申し向けて暗に現金を要求した者の刑責……………39
- 11 コンビニ強盗を企図し、レジのカウンター内で店員に刃物を突き付けたが、店員に逃走されたために、その目的を遂げなかった者の刑責……………41
- 12 強盗の意思でナイフを突き付けたところ、被害者が手提げバッグを投げ付けて逃げ出した後に当該バッグを領得した者の刑責……………44
- 13 路上強盗目的で女性の財布を奪取したところ、タクシー運転手に発見されたため、これを投げ捨てた場合、強盗は既遂か未遂か……………46
- 14 現金強取目的で女性のトートバッグを奪取し物色したものの、得ようとする物が見当たらなかったため、これを被害者に投げ返した者の刑責……………48
- 15 強盗目的で民家に侵入し現金窃取後、帰宅した被害者を脅迫したが強盗は未遂に終わった者の刑責……………50
- 16 商品を窃取した後、強盗の犯意を生じ強盗行為に及んだが未遂に終わった者の刑責……………52
- 17 強盗目的でコンビニ店内のカッターナイフを窃取した後、同店店員に当該カッターナイフを示して現金を強取しようとした場合の罪数……………55

18 洋服のデザインを批判されたことに激怒して客に傷害を負わせた後、その反抗抑圧状態を利用して現金を奪取した者の刑責	57
19 郵便局強盗の目的で、局内にいた客に包丁を突き付け、郵便局長が管理する現金を奪った者の刑責	59
2 強盗予備罪	
〔事例〕 1 タクシー強盗をするだけの目的で刃物を所持してタクシーに無賃乗車し、その機会を狙っていたがその意図を見破られ捕らえられた者の刑責	61
2 事後強盗の目的で刃物を携帯してコンビニに入店し、財物窃取の機会をうかがっていた場合における強盗予備罪の成否	64
3 事後強盗罪	
〔事例〕 1 窃盗犯人が、再度同じ家に盗みに入ろうと舞い戻ったところを家人に発見され、逃走するため暴行を加えた場合における事後強盗罪の成否	67
2 アパートのベランダに侵入して下着を窃取した後に室内で仮眠中のところを居住者に発見された者が、逮捕を免れるため当該居住者に暴行を加えた場合における事後強盗罪の成否	70
3 万引き後に逃走した被疑者が、追跡してきた店員に追い付かれたことから逃走を諦め、店員と店舗に戻る途中、再び逃走を図るため店員に対して暴行を加えた場合の刑責	72

4 車上ねらいの目的で車両の窓ガラスを破壊して逮捕された者が被害者以外の者に暴行を加え逃走した場合の刑責	74
5 窃盗犯人として追跡されている者が、その事実を認識していない警察官に対し、逮捕を免れるために暴行を加えた場合の事後強盗罪の成否	77
6 逃走中の窃盗犯人が、背後から抱きつかれて逮捕されそうになるや、これをとっさに払いのけたことにより、相手に傷害を与えた場合の刑責	79
7 逮捕を免れる目的で凶器所持を仮装して脅迫した万引き犯人の刑責	82
8 コンビニのレジから現金を窃取するためにレジを操作中のところを目撃された者が、自己が窃盗をしようとしたものではないと言い逃れるため、目撃者に暴行を加えた場合の刑責	85
9 逮捕された共犯者を逃走させる目的で逮捕者に暴行を加えた窃盗犯人とその共犯者の刑責	88
10 窃盗の被害者に取り押さえられた犯人が、同人の助けの求めに応じた窃盗の共犯者の暴行によって、逃走に成功した場合の事後強盗罪の共同正犯の成否	90
11 窃盗犯人が逮捕の阻止等の目的で追跡者に暴行を加えるところから、当該犯人と意思を通じて共同加功した者の刑責	93

## 4 昏酔強盗罪

〔事例〕 1 昏酔強盗を行う目的で睡眠薬を混入したウイスキーを客に飲ませたが、いまだ昏酔状態に陥っていない当該客からキャッシュカード等を取り上げた上、同人を昏酔させてから、当該キャッシュカードでATM機から現金を引き下ろした者の刑責	96
2 睡眠薬入りの清涼飲料水を飲ませて性交に及んだ後、同女の財布から現金を抜き取った場合における昏酔強盗罪の成否	99
3 薬物により昏酔させた後、現金を盗取するとともにサービス料金の支払を免れた者の刑責	101
5 強盗致死傷罪	
〔事例〕 1 強盗犯人が、逮捕を免れる目的で、追跡してきた警察官に傷害を負わせた場合の刑責	103
2 窃盗犯人が犯行現場から立ち去る際に擦れ違った目撃者を殺害した場合の刑責	106
3 睡眠薬を飲ませて金品を盗取した犯人が、犯跡を隠すため被害者に傷害を負わせた場合の刑責	109
4 財物強取後、自己の犯跡を隠すため被害者に手錠を掛けて同人を自動車のトランク内に押し込んだまま約10キロメートル離れた山中まで連行し、かつ殺害した者の刑責	111
5 財物を強取されそうになった被害者が、犯人の逃走方向を確認するため走り出した際に転倒して負傷した場合における強盗致傷罪の成否	115

6 強盗犯人から脅迫された際に、被害者が逃げ出そうとして負傷した場合における強盗致傷罪の成否	117
7 強盗犯人を捕まえるため、包丁を把持していた腕をつかもうとしたところ、手指が包丁の刃体に触れてしまい負傷した場合における強盗致傷罪の成否	120
8 店舗内の強盗の現場において、犯人にその存在を認識されていなかった経営者が逃走しようとして負傷した場合における強盗致傷罪の成否	122
9 強盗殺人を決意した犯人が殺害着手前に被害者から貸金として現金の交付を受けていた場合における当該現金に対する1項強盗罪の成否	124
10 売上金を奪取しようと催涙スプレーを噴射して化学熱傷を負わせたものの、その目的を遂げなかった者の刑責	127
11 強盗の犯意発生の前後いずれの暴行に基づくものか判明しない傷害と、強盗の犯意発生後の暴行に基づくものと確定できる傷害がある場合に成立する罪	130
12 強盗以外の目的で相手に傷害を負わせた後、強盗の犯意を生じ、引き続いて財物奪取目的の暴行により、更に相手に傷害を負わせた者の刑責	132
13 現金を盗取する目的で、睡眠薬入りのビールを飲ませて昏酔状態に陥らせたものの、現金の盗取に至らず、5日間の入院加療を余儀なくさせた者の刑責	135
14 債権債務関係を不明にし、かつ、後日、現金を強取	

する目的で債権者を殺害し、その1週間後に同人宅から現金を領得して、その目的を遂げた者の刑責	137
15 刑法第240条所定の強盗致死傷罪の未遂は、どのような態様の場合に認められるのか	140
16 パチンコ台に不正なロムを取り付けるため、正規のロムを取り外したところを従業員に見られ、逮捕を免れるため同人に傷害を負わせた者の刑責	143
17 強盗を共謀した一部の者が強盗の機会に殺害に及ぼうとしたものの未遂に終わった場合、殺傷行為に加功しなかった他の共犯者の刑責	146

### 第33章 詐欺及び恐喝の罪

#### 1 詐欺罪

〔事例〕 1 放置自転車として撤去措置がとられた自己所有の自転車を保管場所の係員を欺いて保管料等の支払を免れ、引渡しを受けた者の刑責	149
2 自己の預金口座に振り込まれた使途限定の前払金につき、使途を偽って振込入金させた場合における詐欺罪の成否	152
3 鉄道会社から返金を受ける目的で、駅員を欺いて使用済み切符を不正に取得する行為と詐欺罪の成否	154
4 自動車運転免許証の名義人が、「再交付を受ける条件」を偽装して、自動車運転免許証の再交付を受けた場合における詐欺罪の成否	156

5 診療報酬の水増し請求による詐欺罪の被害額	159
6 転売する目的を秘して自己名義の普通預金口座を開設して通帳とキャッシュカードを取得した者の刑責	161
7 情を知らない客を誘い、いわゆる「詐欺賭博」を開催した者の刑責	164
8 飲食中に無銭飲食の犯意が生じ、更に飲食物の提供を受けた上、店外で携帯電話をかける振りをしてそのまま逃走した者の刑責	166
9 転居した事実を秘して、従前どおりの通勤手当の支給を受けた者の刑責	169
10 走行メーターを巻き戻した中古自動車を、その旨を秘して売却した者の刑責	171
11 誤った振込みがあることを知った口座名義人がその情を秘して窓口係員から預金の払戻しを受けた場合における1項詐欺罪の成否	174
12 預金通帳等を他人に譲渡した口座名義人が、心当たりのない振込みがあることを知り、その情を秘して口座を解約し、現金を受領した場合の刑責	178
13 いわゆる回転ずし店において、回転レーンに流れているすしを無銭飲食した場合における詐欺罪の成否	181
14 他の者を搭乗させる意図を秘して、自己に対する外国行き航空機の搭乗券の交付を受けた者の刑責	184
15 商品発注の事実がないにもかかわらず、郵便物の代金引換制度を悪用して、名宛て会社の従業員から引換	

代金を領得した場合における詐欺罪の成否	186
16 警察官を装い、コンビニエンスストアで拾得物として保管中の運転免許証を領得した者の刑責	189
17 欺かれた者と財物の交付者が同一人でない場合における詐欺罪の成否	191
18 保釈金名下に現金を指定場所に置かせ、持参人がその場を離れた隙に持ち去った者の刑責	194
19 債務の担保として所持品を指定場所に置かせ、隙を見てそれを持ち去った者の刑責	196
20 故意に事故を起こして保険金をだまし取る目的で、レンタカー会社から車を借り受けた場合における1項詐欺罪の成否	199
21 医師免許証を偽造し、病院と雇用関係を締結した上、実際に医師として患者の診察に当たり、同病院から給料を得ていた者の刑責	201
22 他人を欺いて自己の預金口座に現金を振り込ませたが、犯行が発覚したため当該現金を引き出すことができなかつた者の刑責	204
23 陳列商品に割引表示シールを貼り付け、通常価格よりも安価で購入した者の刑責	207
24 集配業者であると誤信させた上、こっそり荷物を持ち去った者の刑責	210
25 口実を設けて高級ブランドバッグを預かり、これを持ち逃げした者の刑責	214

26 店員に対して商品を購入するとうそを言って、その交付を受けた上、それを店外に持ち出すことを容認させた者の刑責	217
27 料金を支払う意思・能力がない者がセルフサービスのガソリンスタンドにおいて、自己の車にガソリンを注入し、そのまま立ち去ろうとした場合の刑責	219
28 外箱と在中品の商品をすり替えて高価な商品を安価で購入した者の刑責	222
29 会社の元社長に対し、同人が捜査対象として浮上している旨の虚偽の事実を告げた上で、架空のもみ消し話を持ち掛け、対策費名目に現金を領得した者の刑責	226
30 稼働の意思なく入社して社宅に入居した者が、解雇後も同社宅に居座り続けた場合の刑責	228
31 虚偽の被害届を提出し、それに基づいて交通違反の反則金の納付を免れようとした場合における2項詐欺罪の成否	231
32 料金支払の意思も能力もないのにインターネットカフェに入店し、インターネット利用等の利便の提供を受けた者の刑責	234
33 「暴力団事務所としての使用禁止」が賃貸借契約の条件となっていることを知りつつ、暴力団事務所として使用する意図を秘してマンションの一室を借り受けた者の刑責	236
34 自己名義のクレジットカードを使用して商品を購入	

した後、直ちに当該カードを紛失した旨の虚偽の届出をし、当該カードが悪用されたこととしてカードローンによる債務の支払請求を免れようとした者の刑責	239
35 いわゆる「中抜き」を行うために、抵当権者を欺いて当該抵当権設定登記を抹消させた者の刑責	242
36 債務超過に陥った会社名義の不動産を実質的に保有し続けるために、根抵当権者に対し、正規な売却を装い、相当の対価を支払って根抵当権を放棄させた者の刑責	244
37 他人の「健康保険被保険者証」を不正に使用して保険医療機関において歯科診療を受けた者の刑責	248
38 契約条件を仮装して公営住宅に入居した2項詐欺罪の被疑者が、更に収入を偽って、住宅使用料を減額させた場合の2項詐欺罪の成否	251
39 他人名義のクレジットカードで宿泊代金の支払をしようと考え、同人になりすまして宿泊した者が、支払の時点で犯行が発覚した場合の詐欺罪の成否	254
2 電子計算機使用詐欺罪	
〔事例〕 1 ポイント数に応じて割引を受けることができるサービスを悪用し、ポイント数を管理するホストコンピュータのデータを不正に改ざんし、自己のポイント数を増加させた場合における電子計算機使用詐欺罪の成否	258
2 架空会社との取引を装い、自社に設置された端末機	

を不正に操作し、自社の預金口座から他の銀行に開設した自己の預金口座に振替送金をした者の刑責	260
3 インターネット上で有料のソフトウェアをダウンロードするに際し、他人のクレジットカード番号等を入力・送信し、その支払を免れた者の刑責	263
4 インターネットを介して携帯電話機に電子マネーを蓄積させるに際し、他人のクレジットカード番号等を入力・送信し、電子マネーの利用権を取得した者の刑責	266
5 税金の還付金を受けられるものと誤信させ、銀行のATM機を介し、指定口座に振込送金させた者の刑責	270
6 自己の経営する飲食店のカード決済機に、拾得した他人のクレジットカードを不正に挿入し、決済して利益を得た経営者の刑責	273
3 背任罪	
〔事例〕 1 信用金庫の融資担当課長が、既存の貸付金の回収を図るとの名目で救済融資をした場合における背任罪の成否	275
2 信用金庫の支店長が、融資先企業の経営建て直しに役立つと判断し、当該企業（根抵当権設定者）の懇請に応じて根抵当権の一部を信用金庫に無断で抹消した場合における背任罪の成否	278
3 事前の約束により、1番抵当権者が抵当権設定登記をしていないことに乗じ、同一不動産上に第三者のた	

め抵当権を設定してその設定登記に協力した抵当権設定者の刑責	281
4 公的基金の役員が、取引先から私的にリポートをもらう目的で正規の請負価格に不当に上乗せした金額で印刷請負契約を締結させた場合の刑責	283
4 準詐欺罪	
〔事例〕 1 認知症で心神耗弱にある者に対し稚拙な手段を用いて現金を交付させた者の刑責	286
2 躁鬱病に罹患して理解・判断能力を失っている女性の躁状態に乗じて現金を交付させた者の刑責	289
5 恐喝罪	
〔事例〕 1 自己の経営する店舗前に無断で駐車した者に対して注意したところ、畏怖状態に陥ったことから、それに乗じて店の商品を無理やり売り付けた者の刑責	292
2 脅迫手段を用いてパチンコ景品買取所の営業権を時価相当額で買い取らせた場合における恐喝罪の成否	295
3 脅迫手段を用いて債権を回収した場合の恐喝罪の成否	297
4 幼稚園の理事長を脅迫し、園内で女性教諭が使用する笛を交付することを要求した者の刑責	300
5 相手に因縁をつけて脅迫し、後日現金と引換えに返還する意思で運転免許証を交付させた場合の1項恐喝罪の成否	302
6 110番通報を防ぐため、脅迫して携帯電話機を取り	

上げ損壊した者の刑責	304
7 債権者が債務者を監禁した上、暴行・脅迫を加え債権を回収した場合における恐喝罪の成否とその被害額	306
8 脅迫して恐喝を行わせた者を更に脅迫し、喝取現金を取り上げた者の刑責	309
9 詐欺行為で得た現金の請求を断念させるために脅迫した者の刑責	311
10 暴力団員と名のって脅迫した直後に、畏怖した被害者が現金を差し出したことで、氣勢を示して同現金の交付を得た者の刑責	315
11 会社の役員を脅迫し、同社の内部資料と引換えに現金の交付を要求した場合における恐喝未遂罪の成否	318
12 故意に建築資材につまづいて因縁をつけ、現場責任者から現金の交付を受けた場合の1項恐喝罪の成否	319
13 被恐喝者に現金の立替えと交付を依頼され了承した者が、恐喝者に現金を交付した場合における恐喝罪の成否	322
14 他人を脅して自己の治療費を支払わせた者の刑責	324
15 嫌がらせ目的で実在する人物を装って脅迫し、被脅迫者をして当該人物に現金を郵送させた場合における恐喝罪の成否	326
16 専ら嫌がらせ目的で実在する法人をかたって被脅迫者宛てに現金を要求する文書を送り付けて閲読させた場合における恐喝未遂罪の成否	330

17 被恐喝者と現金の交付者が同一人でない場合における恐喝罪の成否とその既遂時期	332
18 虚偽の脅迫文言によって、現金の交付を受けた者の刑責	334
19 詐欺の被害者に対し、その錯誤に乗じ、虚偽の脅迫文言を用いて現金を交付させた者の刑責	337
20 狂言誘拐により、身の代金名下に現金を要求した者らの刑責	340
21 銀行の顧客データを入手したことを奇貨として、当該銀行の役員に対して右翼団体の幹部を名のった上、穏やかな口調でデータの買取りを要求した場合における恐喝罪の成否	343
22 遺失者に対し、拾得物の返還条件として多額の現金を要求した者の刑責	346
23 現金を脅し取る目的で被害者に現金の交付を約束させ、さらに、念書を作成・交付させたものの、被害者が警察に届け出たためその目的を遂げなかった者の刑責	348
24 現金を交付させる目的で被害者を脅迫したところ、被害者がその要求に従って現金の交付を約束したが思い直して警察に届け出た場合の刑責	351
25 恐喝して財物の交付を受けた後、さらに財物の交付を要求して約束したが、その目的を遂げることができなかった者の刑責	355

26 脅迫して借金の返済請求を断念させ、引き続いて現金を喝取しようとしたが未遂に終わった場合の2項恐喝罪と1項恐喝未遂罪の罪数関係	358
27 他人を脅迫して自己の連帯保証人になることを引き受けさせた者の刑責	359
28 債権者を脅迫して、5,000万円の債権を2,000万円で譲渡させた者の刑責	362
29 貸しビル経営者を脅してビルの一室を借り受け、組事務所を開設した暴力団組長の刑責	365
30 レストランの店主を脅迫し、同店の来客用駐車場の一面を無料で使用した者の刑責	368
31 暴力団組員であることを示して脅迫し、自己の飲食代金を免除する旨を内容とする文書に無理やり署名させた上、その請求を断念させた者の刑責	370
32 他人から携帯電話機を脅し取った場合における2項恐喝罪の成否	373
33 自己が以前に交際していた女性に対し、同女の裸体写真30枚を郵送した上、後日その写真代金の請求書を郵送した暴力団組員の刑責	376
34 現金の交付を受けた恐喝犯人が張り込み中の捜査員に現行犯逮捕された場合、恐喝罪は既遂か未遂か	379
35 3名から現金を喝取しようと考え、うち1名を脅迫したところ、直接に脅迫された者が現金を集めたものの、同人が警察に訴え出たために現金を取得できな	

かった場合における恐喝罪は、既遂か未遂か	381
36 恐喝行為によって畏怖した被害者が支払免除の意思表示をした後、警察に訴え出た場合、その2項恐喝罪は既遂か未遂か	384

## 第34章 横領の罪

### 1 横領罪

〔事例〕 1 振出人の依頼により、約束手形に自らが裏書をして割り引いた者が受領した現金を費消した場合の横領罪の成否	387
2 レンタカーを借り受けた者が、期限を過ぎても返還しなかった場合の横領罪の成否とその既遂時期	389
3 拾得者から警察に届け出るように依頼されて預かった財布を領得した者の刑責	393
4 窃盗犯人の依頼に基づき盗品を売却した後、代金の一部を領得する意思で虚偽の事実を申し向け、その交付を免れた者の刑責	395
5 窃盗犯人から委託を受け保管していた盗品を、無断で売却した者の刑責	398
6 自己の不動産を売却した後、所有権移転登記が未了のままになっているのに乗じ、更に同一不動産を売却した第三者に所有権移転登記した者の刑責	400
7 所有権留保特約付きの車両を融資の担保として授受した当該車両の使用人と金融ブローカーの刑責	401

8 会社から集金権限を与えられていない営業課員が、顧客から代金を預かりこれを不法に領得した場合の刑責	404
2 業務上横領罪	
〔事例〕 1 運送会社の代表取締役が、他社から借り受けて自社の業務に使用していた大型トラックを勝手に売却処分した場合における業務上横領罪の成否	407
2 上司から会社主催のイベントの招待券を無償配付するように指示された者が、その一部を有償配付してその代金を領得した場合の刑責	409
3 正規の集金を装い、顧客から集めた現金を自己の借金の返済に流用した者の刑責	412
4 小切手振出し等の経理全般を統括する理事が、自己の借金返済に充てる目的で理事長名義の小切手を振り出して、組合の預金口座から現金を引き出し、これを領得した場合の刑責	415
5 委託を受けて占有中の他人の不動産に抵当権設定登記を行った業務上横領被疑者が、更に当該不動産を売却した場合の業務上横領罪の成否	418
6 パチンコ店店長が、私的に使用するため、パチンコ台内から抜き出した出玉を不正に計数機に投入し、貯玉カードに記録させた場合の刑責	420
7 新聞販売拡張業者から交付された新聞購読成約時用の商品券をほしいままに他に換金した新聞拡張員の刑	

責	422
8 運送会社の運転手が、配送元から積み込んだ家電商品を配送先に運搬せずに他に売却するためにトラック内に保管した場合の刑責	424
9 現金及び預金管理等の経理全般に従事する経理部長が、自己の用途に費消する目的で自社に設置された端末機を操作し、同社の預金口座から自己の預金口座に振込入金した場合の刑責	426
10 社長から割引を指示されて手形を受け取った経理課長が、その直後に不法領得の意思を生じ、外見上は委託の趣旨に従ってこれを割り引いた後、割引金を自己の借金の返済に充当した場合における業務上横領罪の既遂時期	428
3 遺失物等横領罪	
〔事例〕 1 拾得した馬券が当たり馬券であれば交番に届けようと、その確認を夫に依頼したところ、当たり馬券であることを確認した夫が外れ馬券であったと妻にうそを言って当該馬券を領得した場合の刑責	431
2 他人が置き忘れた携帯電話を使用して友人等に電話をかけた後、これを元の場所に置いて立ち去った者の刑責	434
3 誤って多く渡されたアルバイト代金を返還しないで自己の遊興費に使った者の刑責	436
4 誤って乗って来た他人の自転車を返すことなく使用	

していた者と、その事実を知りながら自転車を借り受けた者の刑責	438
5 盗品であるとの情を知らずに買い受けた腕時計を、その情を知った後、売却しようとした者の刑責	442
6 知人から購入した手提げバッグ内に入っていた現金を領得した者の刑責	446
7 自己の郵便受けに誤って配達された郵便物を領得した者の刑責	449
8 窃盗の意思で自転車のサドルを取り外したところ、当該自転車が占有離脱物であった場合の刑責とその着手及び既遂時期	451
9 路上に放置された他人の自転車を自己の物のように装って知人に贈与した者の刑責	453
4 親族間の犯罪に関する特例の準用	
〔事例〕 1 失踪中の父親の財産管理人となっている者が、同人の財産を横領した場合における親族間の犯罪に関する特例の適用の有無	456
2 家庭裁判所から選任された成年後見人が、成年被後見人所有の財物を横領した場合の「親族間の犯罪に関する特例」の適用の有無	459
第35章 盗品等に関する罪	
1 盗品等無償譲受け・運搬・保管・有償譲受け・処分あっせん罪	
〔事例〕 1 日本人が国外で窃取した財物を、日本国内において	

無償で譲り受けた場合の盗品等無償譲受け罪の成否	462
2 盗品を無償で譲り受けた者と当該譲受け行為の媒介・周旋行為を行って報酬を得た者の刑責	464
3 窃盗本犯と共同して、被害品であるオートバイを運搬した窃盗助者の刑責	466
4 倉庫から財物を窃取した者から依頼を受けて、当該盗品を運び出した者の刑責	469
5 情を知って盗難車両を買い受けた者と共謀して、情を知らない自社の従業員に当該盗難車両を運搬させた者の刑責	472
6 盗品等有償譲受け本犯と共同して盗難自動車を運搬した場合における盗品等運搬罪の成否	475
7 友人が持っている自転車が横領物であると未必的に認識しながらこれを使用した者の刑責	477
8 詐欺事件の被害品である所有権留保付きの自動車とその情を知らずながら買い受けた場合における盗品等有償譲受け罪の成否	480
9 刑事未成年者が窃取した財物であることを知らず、当該財物を買い受けた場合における盗品等有償譲受け罪の成否	482
10 詐欺の被害品である携帯電話機のいわゆる白ロムを買い受けた者の刑責	484
11 窃盗被疑者から盗品を買い取る約束の下に代金を支払ったが、盗品が引き渡される前に当該被疑者が逮捕	

された場合の盗品等有償譲受け罪の成否	486
12 後払いの約束で窃盗本犯から自動車を譲り受けた後、当該約束を変更して自動車を使用していた場合における盗品等有償譲受け罪の成否	488
13 自ら窃取したバイクの売却を申し入れた者とその情を未必的に認識しながら買い取った者の盗品等処分あっせん罪及び盗品等有償譲受け罪の成否	490
14 盗品たる商品券の換金を依頼された者が、さらに、他の者に同商品券の換金を依頼した場合における両者の刑責	493
15 盗品の処分あっせん行為を、窃盗本犯が犯行を実行する前に行った場合における盗品等処分あっせん罪の成否	496
16 盗品である新幹線回数券の現金化を依頼された者が、同回数券を金券ショップに持ち込んで換金しようとした場合における盗品等処分あっせん罪の成否	498
17 財産犯の被害者に対して被害品の有償処分をあっせんした場合における盗品等処分あっせん罪の成否	501
18 窃盗本犯の公訴時効が成立した後、その情を知らず、当該被害品の処分をあっせんした場合における盗品等処分あっせん罪の成否	503
2 親族等の中の犯罪に関する特例	
〔事例〕 1 同居の弟が他人から買い受けた盗品であるマウンテンバイクを、その情を知って共同使用していた兄の刑	

責	506
2 同居する弟に原付バイクを盗ませた上、当該バイクを共同使用していた兄の刑責	508
3 同居中の兄が仲間と共に窃取したオートバイを、その情を知った弟が他の者と共謀して有償で譲り受けた場合において、弟及びその共犯者に対して親族等の間の犯罪に関する特例を適用することの可否	510
4 刑法第257条1項の適用範囲	513

## 第36章 毀棄及び隠匿の罪

### 1 公用文書等毀棄罪

〔事例〕 1 弁解録取時に、捜査員が手にしている逮捕状を力いっぱい引っ張って奪い取り、これを破り捨てた者の刑責	516
2 供述調書に署名・指印を求められた被疑者が、それをつかみ取って破り捨てた場合の刑責	518
3 作成中の反則切符を持ち去って破り捨てた者の刑責	520
4 署名等をするために取調べ状況報告書を手渡された際、取調べ時間欄をボールペンで塗り潰した者の刑責	523

### 2 私用文書等毀棄罪

〔事例〕 1 不渡り手形を提示されて手形金の支払を請求されたので、自己の署名・押印に係る裏書部分をマジックで塗り潰した裏書人の刑責	525
2 破棄する目的で、他人に交付した自己名義の借用書	

## 目次

を持ち出した者の刑責	528
3 交通上のトラブルから、専ら廃棄する意図で他人の運転免許証を持ち去った者の刑責	530
3 建造物等損壊・同致死傷罪	
〔事例〕 1 妻との共有名義に係る住宅の柱を損壊した別居中の夫の刑責	533
2 一戸建て住宅の玄関ドアを損壊した場合の建造物損壊罪の成否	535
3 元交際相手が居住する賃貸アパート一室の内壁を蹴り、修繕が必要な程度の穴をあけた者の刑責	537
4 器物損壊罪	
〔事例〕 1 嫌がらせのために他人の自転車を持ち去り、近くの河原に放置した者の刑責	539
2 自己の殺害行為を強盗犯人による犯行と見せ掛けるため、被害者の所持金品を投棄する目的で持ち出した者の刑責	542
3 パチンコ店に侵入して、パチンコ台から正規のロムを取り外して偽造ロムに交換した者の刑責	544
4 区役所が道路脇に設置した防災用消火器を噴霧した者の刑責	545
5 交通違反の取締りを妨害する目的で、駐車中のミニバットのエンジンキーを抜き取って逃走した者の刑責	548
6 町会が設置した掲示板に貼られている指名手配被疑者のポスターを破り捨てた者の刑責	550

7	デモ行進中に通行人が所持していた外国国旗を奪い取り、その場で引き裂いた者の刑責	552
8	隣家の飼い猫を河川敷に遺棄した者の刑責	555
9	他人の車両に油性マジックペンで落書きした者の刑責	557
10	気分を晴らすため、公園内に設置されたごみ箱を焼損させた者の刑責	559
11	腹いせにパチンコ店の塀にスプレーで暴走族名等を落書きした者の刑責	562
12	顔面を手拳で殴打し、傷害を負わせるとともにかけていた眼鏡を損壊した場合の器物損壊罪の成否と被害届の作成要領	565

## 請求対象外

請求対象外

実務 (39) 刑法各論 [下]

平成30年3月31日 印刷発行

東京都千代田区霞が関2-1-1

編集兼  
発行者 警視庁刑事部刑事総務課

電話 (03) 3581-4321

(内線 [REDACTED])

印刷所 [REDACTED]

リサイクル選性®  
この印刷物は、環境へ  
リサイクルできます。